

◆『Intelligence』購読会員の皆さまへ: ニューズ・レターNo.38(2016年7月号)◆

梅雨の明ける前の蒸し暑さが続くなか、皆さまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。さて、次号『Intelligence』第17号の投稿原稿を募集しております。締め切りは、9月末です。投稿をご予定の方は、事務局まであらかじめご連絡頂ければ幸いです。

ご愛読の会員の皆さまには、ニューズ・レターとともに「Intelligence」会員専用ウェブサイト <http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html> また、会員向けブログとあわせてご覧いただければ幸いです。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。

【ブログ用エッセイ募集】会員向けブログでのエッセイは、お楽しみ頂いていますでしょうか。第八回の白山真理先生の原子力平和博覧会に関する話に次いで、第九回の白土康代さんの紙芝居のお話し、第十回は井上佑子さんによる戦後の文化社についてのエッセイと、研究上の興味深い逸話をご執筆いただいております。このブログのエッセイの執筆希望者を、購読会員の中から募っております。研究に関する小話やヒント、資料紹介などを会員向けブログに掲載なりたい方は、お原稿をお待ちしております。原稿の長さは千字程度、写真を二葉そえてご提出下さい。詳しいことは、事務局までご連絡下さい。

【第104回研究会】(7月2日(土)午後2時30分～5時30分)

・藤元直樹(文化資源学会)「映画製作者としての坪内逍遙—『道灌と缺血』(1930)・『商人と猿の群れ』(1931)を中心に」は、明治初期の作家・文芸評論家として有名な坪内逍遙が、昭和初期に帝国教育映画株式会社と組んで、日本の映画を制作をしていたという、あまり知られていない事実を掘り起こして、その背景や関係者について実証的に明らかにして下さいました。

・大城由希江(神戸大学大学院国際文化科学研究科)「占領期沖縄の米軍広報活動とラジオ放送—米軍写真記録を史料として—」は、米軍による広報活動と沖縄におけるラジオの普及過程を、主に「親子ラジオ」導入に関する米軍写真記録から読み解いて下さいました。

・鈴木規夫(愛知大学国際コミュニケーション学部)「〈イスラーム報道 Covering Islam〉再考—テロリズムの劇場化〉によるイスラーム・イメージの歪曲」は、E.W.サイードの議論を踏まえ、最近の「IS」「ダーイッシュ」といった名称を始めとするイスラーム・イメージに働きさまざまな力学を論じて下さいました。

なお、研究会当日に配布されたレジュメは、会員ホームページにアップされています。
<http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html> をご覧下さい。

●今後の20世紀メディア研究会は、9月18日(日)の20世紀メディア研究会百回記念企画展「雑誌に見る占領期—福島鑄郎コレクションをひらく」記念国際シンポジウムの後、10月29日(土)、11月26日(土)に予定しております。研究会でのご報告御希望の方は、20世紀メディア研究所事務局 m20th@list.waseda.jp まで、メールにてご一報下さい。

【気になる新著】

劉文兵『日中映画交流史』(東京大学出版会)は、満州映画から冷戦期、改革開放期、さらに山口百恵と高倉健、そしてトレンディー・ドラマとアニメを中心とした「クールジャパン」に至る約九十年間にわたる日中の映画交流史をまとめたもので、今後は日中映画交流史に関する研究書のスタンダードとなるだろう。岩本憲児『「時代映画」の誕生』(吉川弘文館)は、講談、小説、剣劇から時代劇の映画が生まれ、推移していった過程を論じた書。豊富な写真資料とともに、戦後衰亡していった「時代映画」の黄金期を立体的に詳述した研究書。藤木 TDC『東京戦後地図 ヤミ市跡を歩く』(実業之日本社)は、戦後東京及びその近郊で生まれたヤミ市の実態に当時の地図と写真から迫った書。現在の写真も比較のために掲載されていて、改めてかつてはそうだったのかと思う。現在放送中の朝ドラに出てくるヤミ市のリアリティをこの本を見ながら検証するのも面白いかもしれない。

[7月16日付 文責:土屋礼子]